

はじめに

自己紹介をします。

私は、株式会社ライフネット代表取締役社長の齋藤聡といたします。皆さんにとっては、ライフネットといってもなじみがないかもしれません。かえって、岩見沢公益社、岩見沢平安閣というとお解かりいただけるかもしれません。あくまでもこれは屋号でして、会社名はライフネットです。

それでは、簡単に会社の沿革を話しますが、昭和元年 齋藤造花店として創業しまして、私で、3代目となります。昭和48年(有)岩見沢公益社及び(有)岩見沢冠婚葬祭互助会を設立しまして、平成12年両社を統合して(株)ライフネットとなりました。現在では、グループ内に、岩見沢公益社、公益社メモリアルホール、岩見沢平安閣、衣装室シンフォニー、平安ビルがございます。

また、私どもは、全日本葬祭業協同組合連合会に加盟しておりまして、全国に加盟店が1621社葬祭業界の最大規模の団体に所属しております。現在、定かな数字ではありませんが、全国3500社以上の葬儀社があります。また、その中の北海道葬祭業協同組合に加盟しており、加盟店が144社あります。全道では約400社の葬儀社があるといわれておりますが、死亡率の増加に伴い、新規参入など、年々業者は増えてきている傾向にあります。

(葬祭ディレクター)

ところで皆さんは、葬祭ディレクターというのを、ご存知でしょうか？厚生労働省認定の国家認定資格であります。平成17年現在で1級葬祭ディレクター7653名そのうち北海道では516名、2級葬祭ディレクター6000名でそのうち北海道では267名おります。

確かに、この資格がなくても、葬儀社を運営することは可能ですが、できることなら、葬祭ディレクターのいる葬儀社にご依頼されることが信頼のおける葬儀社として懸命だと思います。岩見沢市内では、現在12社あるのですが、ディレクターを有する葬儀社は、私どもを含めて2社だけです。

データから見る日本の現状

次に、日本の人口形態ですが

平成17年12月現在

人口 126,206,000人

1. 出生 30秒 1,062,604人

明治32年国勢調査開始以来最低

2. 死去 29秒 1,084,102人(死亡率上昇)

自殺 30,539人 交通事故9,970人

3. 婚姻 44秒 714,261組

前年比 6,156組減

4. 離婚 2分 261,929組

昨年度12月現在での日本の総人口は1億2620万6千人でした。

出生が106万2604人で30秒に一人の割合で生まれているのに対して

死亡が108万4102人と29秒に一人の割合で亡くなっています。

出生率は明治32年国勢調査開始以来最低です。

死亡者も平成16年度の102万8602人から5万5410人も増えています。

ちなみに、死亡者の中で一番多いのがガンでして全体の3割、次に心臓病で16%、脳卒中が続いて12.3%です

約6割近くが3大疾患とよばれている病気で亡くなられています。

また、自殺者も近年増えてきており一昨年度が3万539人おりました。交通事故死者数は、北海道でも減少していますが、全国的に見ても初めて1万人をきり、9970人でした。ごらんのように、一昨年初めて、死亡率が出生率を上回りまして、今後更に死亡率は増え続けていきます。

統計によると平成34年死亡率がピクになると予想されています。

まさに、今ちょうど人口のピクを迎えていて、今後日本の人口も減少していく傾向にあるといわれています。

おそらく、30年後には1億人の人口を切り9千万人代になるだろうといわれています。

データから見る日本の現状

婚姻も最近は減り続けてまして、3年前に約80万組結婚されていたのが現在では71万組となっています。

過去最低の婚姻率です。

それにあわせてかどうかわかりませんが、離婚率も若干ですが平成14年をピークに減少傾向にあります。

先にもお話ししたように、出生率が減り、死亡率が増え、少子高齢化に拍車のかかることは間違いありません。

次に、北海道の人口動向ですが、

平成16年

人口 5,654,507人

1. 出生 44,165人

出生率 0.78% 全国0.84%

2. 死去 47,335人

死亡率 0.83% 全国0.86%

3. 婚姻 30,660組

婚姻率 0.54% 全国0.57%

4. 離婚 14,600組

離婚率 0.26% 全国0.21%

北海道では、出生率、婚姻率が全国に比べてかなり少ない傾向にあります。

併せて、皆さんご存知のように離婚率は、全国一を維持しております。

なぜ葬儀を行なうのか

さて、皆さんの宗派は何でしょうか？日本では仏教徒8割 神徒1割 基督教徒0.5割とされています。仏教は、日本仏教連合会に所属する宗派は13宗56派で、法相宗・華嚴宗・律宗・天台宗・真言宗・融通念仏宗・浄土宗・浄土真宗・臨済宗・曹洞宗・黄檗宗・日蓮宗・時宗があります。岩見沢市内では、真言宗浄土宗・浄土真宗・臨済宗・曹洞宗・日蓮宗そして他に岩見沢では日蓮正宗、法華宗等があります。

神徒も、沢山ありますが、岩見沢神社、天理教、黒住教、御獄神社、金光教他にも多くあります。キリスト教も、カトリック、プロテスタント、ゴット、モルモン等が岩見沢市内にございます。

それでは、さまざまな宗派がありますが、なぜ葬儀をするのでしょうか。

1つには社会的な処理

集まってもらい死の確認をする

戸籍抹消、相続手続、社会的認知

つまりこの世に、故人様がなくなった証明をしなければなりません。

2つには遺体の処理

腐敗、衛生上（コレラ、赤痢、伝染病）

法的処理、法律では死が確認されてから7日以内の埋葬（火葬）が義務付けられています。

3つには霊の処理

遺された（のこされた）者との関係

宗教者による儀式。最近では、ご遺族皆様で思い思いのお参りをされてけじめをつけてる方もいるようです。

最後に悲嘆の処理

ご遺族の気持ち、悲しみを段階的に心のケア（いやし）をしていき、気持ちを徐々に清浄化していくことです。

次にここでは、葬儀今昔として、昔の葬儀、現在の葬儀について話してみましよう。昔は、ほとんどが自宅葬でした。しかしながら、北海道は寒く長い冬があります。お参りの方も増えてきまして、町内葬、自治会館での葬儀が増えてきました。また、お寺での葬儀というのも平行して増えてきました。それが、だんだんと便利な斎場葬に変わってきたのです。

市内でも斎場が、仕出し屋さんの斎場を含めて7つもあるのです。それが最近では、家族葬として、またご自宅や、斎場でも小さな場所で、儀礼を排除して、家族だけで行う葬儀が増えてきております。加えて、自然葬として、散骨、宇宙葬、樹木葬等が注目を集めてきています。自然葬については、後ほど詳しく説明いたします。

葬儀費用について

さて、皆さんが一番知りたいことは葬儀費用の内訳ではないでしょうか。葬儀費用については、全国消費者センタで調べた平均費用は、平成11年のデータで日本が340万円、札幌が280万円、岩見沢では180万円です。この金額の差は、慣習の違い等によるものです。平成15年のデータで日本が236万円、札幌が220万円、岩見沢ではだいたい150万円です。北海道では186万2千円というのが2日間の葬儀費用の平均値です。

岩見沢市内では、一般的に2日間の葬儀総費用は約120万円～200万円といわれてお

ります。年々費用は下がりつつある傾向にあります。お配りした青いチラシをご覧ください。弊社では平成17年度の施行数が511件でした。葬具代金の平均値は、69万5114円でした。その中で祭壇料金の平均値が小さく書いてありますが277,672円でした。ご会葬者の平均値が128名です。他に飲食関係や雑費など、平均値を記載しておりますのでご覧ください。

それからよく聞かれることが、ご会葬者の人数です。先ほどは平均を言いましたが、これだけは、お家の付き合いによりますし、ご親戚の方の人数によっても代わります。一番目安となるのはお家でやり取りされている年賀状の数です。大体の方は年賀状の数の1.3倍ぐらいを目安とされると、ご会葬者の数となります。やり取りしていても、遠方でこられない方、年賀状を出さない町内の方なども加味していくと1.3倍ぐらいということになります。ただし、先ほども言いましたように、お家のお付き合いによって変わります。話が横道にそれました。すみません。

戻りますが、私ども葬儀社へは、約40万円～100万円（祭壇・御棺・霊柩車・香典返し等です）仕出し店へは、約20万円～40万円（飲食・引物等です）雑費として約10万円～20万円（夜具・会場使用料・集合写真・火葬料等です）そして最後に宗教者へのお礼、仏教でいうお布施、院号料ですね。

皆様のご質問の中でよく、葬儀費用最低でいくらかかりますかと問われます。皆さんはどうでしょうか？どのくらいだと思います？私がお答えしているのは、21万5000円ですとお答えしています。

これは、実際には平成17年度岩見沢市における生活保護世帯に対しての、最高給付額として、市の考えとしてはこの金額内で2日間の葬儀を執り行ってくださいということです。この場合には私どもも赤字ではありますが、なるべくこの金額に収まるように施行をさせていただきます。

#### 葬儀費用について

また、もっとお安くできないだろうかと言うことで、問い合わせもありますが、その場合にはやはり宗教者を呼ばずに、24時間病院の霊安室で御安置し、そのまま病院から火葬場に向かう場合です。その際には、お棺、お骨箱、霊柩車の単品費用となりますので葬儀費用は確かに一番お安いです。しかしながら、皆様のお気持ちの中で、納得できるかどうかですけれども。事例は何件かあります。

一般的には、私どもでは祭壇金額、祭壇の段とお花、幕飾りを併せて1万円、3万円、

5万円、10万円、15万円、20万円、25万円、30万円、35万円、40万円、50万円、60万円、80万円、100万円、120万円、150万円、200万円と上限は限りなくお飾りをすることができます。その他にかかります費用が、お棺、お骨箱、霊柩車、ご遺体搬送、遺影写真等含めて約25万円から約30万円です。

それプラス香典のお返し、返礼品が使用した分というのが葬具代金です。返礼品は岩見沢では300円から500円程度のものがまだ一般的でしょうか。こちらは余りましたら引き取りますので、使用した分ということになります。祭壇料、諸経費、返礼品を併せて葬具代金となるのが一般的です。

そして、最近ですと仕出し店に発注することが多いのですが、皆様の食事、通夜の夕食、通夜ぶるまい、朝食、火葬場での昼食、忌中の引物、飲み物、茶菓等が仕出し店への一般的な費用となります。その他にかかりますのが、式場使用料、夜具、火葬料、有料死亡告知（新聞黒枠、IHK）などがかかります。それと宗教者へのお礼ですね。これらを全てまとめて葬儀費用となります。

#### 葬儀費用について

それでは、宗教者へのお礼ですが、仏教では、お布施、戒名料、法名料、法号料ですね。よく聞かれるのですが、一番答えにくい部分ですね。まあここでは、あえて、一般的な費用を、ご説明します。戒名料、法名料、法号料は、実際に各宗派、というよりもお寺さんによって違います。皆さんよく耳にするのが、院号料つまり位の高いお名前ですね。一般的には、20万もしくは30万円ですが、お寺によって10万円のところから50万円ぐらいまで様々です。中には何億円掛けてもいいですよ、なんてありえないことを言うお寺様もいらっしゃいます。

次にお布施ですが、ご葬儀の際に真ん中に座る導師の方が15万円から20万円ぐらいが一般的です。また、その脇に座る、伴僧もしくは役僧が半分ぐらいです。しかしながら、これは、先にもお話ししたように、お寺様によって違います。よくよく檀家寺と相談されるとよろしいでしょう。直接お寺様に聞いていただいても失礼ではありません。また、今お話しした金額も厳しい方はいらっしゃいますよね。その方もお寺様と事情をよく説明してお話合いのなかから決めていただければと思います。心優しい理解のあるお寺様もたくさんいらっしゃいます。

次に、葬儀社ですが、先ほどもお話ししたように岩見沢市内に現在12社も葬儀社があります。みなさんっていましたか？そして、葬儀社によって料金体系が全て違うこともご存

知でしょうか。私どもでは祭壇といえば、祭壇の段とお写真の周りのお花を含めて祭壇料金です。その他に霊柩車、お棺、お骨箱などの諸費用がかかります。先ほどお話しした、祭壇金額1万円からと、諸費用25万円から30万円ぐらいかかりますとお話させていただいた通りなんです。他の葬儀社では、祭壇の段だけでいくら、それにお飾りするお花代でいくらと考えているところもありますし、お棺などを全て含めて一式でいくらとして葬具代金を決めている会社もあります。

#### 自分らしい葬儀とは

人生の三大セレモニーと言われるのが、出産（誕生）、結婚、葬儀です。誕生は自身では何もわかりませんが、親となって子を授かると考えると、そのときには、この子をどのように育てていくか、不安と希望があふれてくると思います。その中でご自身を見つめなおし将来のことも真剣に考えるのではないのでしょうか。ご結婚もお二人で希望を出されてどのようにしたいか真剣に考えられるのではないのでしょうか。しかし、どうでしょうご自身のご葬儀は、絶対に見ることはできません。亡くなってからは何もできないのです。

先ほどのお話に戻りますが実際に葬儀費用150万円と聞いて、高いと思われましたでしょうか。それとも安いと思われましたでしょうか。

実際に、大切な人を亡くされて気が動転している中で2日間、3日間の中で、ばたばたと決めてしまったのでは、後から落ち着いて考えると高かったなって感じる方が少なくはないのでしょうか。もしくは、もう少しこうしてやりたかった、この部分を詳しく教えてほしかった等様々な疑問や、心残りが出てくるのではないのでしょうか？

皆さんが、150万円のお買い物をするとしたら、連想するのは何でしょうか？

車、リホーム、ガーデニングでしょうか？

仮に車を購入されるとして、皆さんはどうされますか。

形、色、車種、機能といろいろな資料を見て、あるいは車屋さんにかかれて、何日もかけて吟味し納得してから購入されると思います。

先ほどお話ししたように葬儀ではそんな時間が有りません。多くのことを短時間で決めてしまわなければならないのです。

実際に自分のご葬儀を自分で参列することはできません。ご遺族皆様もおそらくこうすれば喜んでくれるだろう。成仏できるだろうと想像でしかないのです。

大切な人が亡くなってから、葬儀を決めるのでは、果たして故人は納得しているのでしょうか。本心がわからないので疑問が残りますよね。

ご遺族皆様は、葬儀社から料金提示を受けて納得しているのでしょうか？比較対照がなけれ

ば高いか安いかわからないですね。

誰もが納得のしないままに葬儀が進められてしまうのです。

#### 自分らしい葬儀とは

皆さんは俳優の渥美清さんをご存知でしょうか。寅さんと言った方がわかるかもしれませんが。本名田所康雄さん。彼は自分の葬儀を3回行いました。田所康雄さんとしての葬儀は家族葬として、ご自宅で一週間かけてされたそうです。もちろん報道陣なども全てシャットアウトして行いました。ご遺族皆様でお送りしたそうです。それから、俳優としての渥美清さんはお別れ会として大船撮影所で3万人のファンの皆様でお別れをしたそうです。

それでは車寅次郎さんとしてはどうだったのでしょうか。男はつらいよシリーズでの何作目かは定かでないですが、確か14作目だったと思います。ご葬儀に参列した後で、おいちゃんよ葬儀ってのわよしみたつれていけないよ。俺が死んだらさ、華やかにぱーっと送ってほしいな、江戸川に屋形船ずらーっと並べて芸子衆を呼んじゃったりして、と言う場面があり、実際に役者さんスタッフでそのようなご葬儀をされたそうです。

実際に、寅さんのように自分のご葬儀について家族に伝えている場合はどうでしょうか？

亡くなる方は、自分のご葬儀のイメージをしていますから納得していただけますよね。

ご家族はどうでしょうか、事前にご葬儀の内容を確認されているのですから、思いを成し遂げることができ納得できますよね。決してタブーではありません。寅さんのように自分の思いを伝えることこそこれからの葬儀では必要になってくるのではないのでしょうか。

次に費用ですけれども、事前に葬儀社を選定するのもこれからは必要になってきます。私は互助会に入っているから大丈夫。葬儀社の会に入っているから安心。

こんな方もいらしゃるのではないのでしょうか。先にもお話したように、葬儀社でも料金体系は千差万別です。でも実際には1社しか見ないで見積書も取らずに何もされていない方が多いのが現状です。

#### 自分らしい葬儀とは

これからの葬儀は、自分のご葬儀は自分で考える。葬儀社を事前に調べ見積書をもろう。葬儀社を選定する。

家族にその旨を伝えることが必要になると思います。

また、各葬儀社の互助会であるとか会員制度というのが沢山あると思いますが、大丈夫と

が安心と言うことはありません。私どもでも互助会の制度はあります。一口3000円×60回18万円を積み立てていただくわけですが、勘違いされているのはその18万円で葬儀全行えらると思われている方が非常に多いのです。確かに割引も利きますし、積み立てている18万円を葬儀費用から、軽減することはできますので、当日の負担金はかなりお安くなります。先ほど2日間の葬儀費用約150万円かかりますよとご説明いたしました。仮に18万円積立されていて完納されて方は当日の負担金が、割引も含めて総費用は120万円ぐらいになります。

10年ぐらい前までは、ご会葬者も多く、葬儀費用はご香典の中からまかなうことができました。でも最近では、先ほどお話したようにご会葬者の数も減ってきています。ご香典ではまかないきれずに、ご遺族皆様のご負担することが多くなってきました。それでは、その費用をどのようにしてお考えですか。

一つにはご葬儀のことを見越しての預貯金ですよね。それからもう一つには、保険でしょうか。ほとんどの皆様が保険には加入されていると思います。国民健康保険、社会保険、任意保険様々だと思います。ただその保険が、死亡したときにどれくらい支払われるか、もしくは支払われないのかしっかりと把握しているでしょうか。保険にも様々な種類があります。

#### エンディングノートについて

それでは、皆様にお配りしたエンディングノートをご覧ください。

全ての方が老いたくない、病気になりたくない、死にたくないと考えることは、ごくごく自然なことだと思います。

「介護してもらうのは気の毒だから、施設に入るわね」

「死ぬなら家の布団で死にたいわ」

「私がガンになってもちゃんと教えてね」

「私のお葬式はたくさんの花で飾ってちょうだい」

「私が死んでも何もしなくていいわよ」

こんなお話は、いつの時代でもタブーとされていました。家庭の中でも話題にはしなかったと思います。しかしながらどうでしょう、先延ばしにしていってもいつかは訪れるのです。その時になってから、ご本人で決断したり、考えたりすることはできません。また、ご家族の方はどうでしょうか、ご本人の意思を確認できないままに決断をせまられ、迷ってしまったり、後悔だけが残ってしまうのではないのでしょうか。

そんな時に、本人の希望がわかっているならば、家族も安心して、よりよい決断をしていくことができます。

本人としても、前もって希望をいっておけば、ご自身の納得のいく介護やご葬儀ができるのです。

決してタブーではありません。家族といろいろなことを話し合っていくことが大切です。

人は必ず死を迎えます。

歳をとり、身体が衰え頭も衰え、やがて死んでいくのです。人はいやなことには目をそむけてしまいがちですが、しっかりと正面で受け止め、考えたり、話し合ったりその過程に悔いを残さないようにしたいものです。

自分の親のこと、自分のことしっかりと考えてみませんか。そしてこのエンディングノートに記してみませんか。

( エンディングノートをご覧ください。ホームページよりダウンロードできます )

#### エンディングノートについて

##### 1 書き記すことのできる項目から書いてみましょう

全ての項目を書き込まなくても結構です。時間をかけてゆっくり考えなくてはいけないものもあります。答えられる時期がきたら、改めて書き加えましょう。

##### 2 気持ちが変わることもあります

今のお気持ちから変わることもあります。以前に書き込んだものから変える場合には、その部分を消して新たな気持ちを書き記しても結構です。変更した場合には、その部分に日付を忘れずに書いておくことも必要です。

##### 3 ご家族にもお見せして、お互いの気持ちを確認しましょう

このノートに書き記したことは、できるだけご家族の方にもお見せして、ご家族皆様とも話し合ってください。その時の本人の考えとご家族の意見は、必ずしも一致してないと思います。

しかしながら、これから折にふれ何度か話題に出すようにされてもよろしいかと思えます。ご家族が離れている場合には、機会を見つけてこのノートを見せるようにするといいでしょう。ノートを見せることによって、ご自身の考え方も家族に知ってもらうことができますし、逆にご自身も家族の考え方を知ることができると思います。事情があって家族に託せない場合などは、友人知人などの信頼できる人に見せるといいでしょう。

#### 4 いつでも見える場所に置きましょう

書き終えたノートは、その意思表示を実現させるためにも、いざというときにすぐに取り出せる場所に保管しましょう。そしてその場所をご家族にも知らせておきましょう。

#### 5 必ず日付と署名をしましょうこのノートに記入し終わりましたら、もう一度読み直して、自らの気持ちを確認しましょう。その後、署名欄に、日付を記入し署名しましょう。

ノートをごらんいただいたからと言って、意気込んで書く必要はありません。ゆっくりと時間を掛けて、その中で何度も何度も見返していただきご自身の人生をまずは、振り返ってみてください。そして、これからのこと真剣に考えてみてください。

これから何を生きがいとして生きていかれるか、病気になったとき、仮に亡くなった時どうされたいか、考えてください。ご自身のことはご自身にしかわかりません。きっと、ノートを書かれて振り返るときに、涙がでてくるかもしれません。つらいノートです。でも自分の歩んだ道のりをご家族に残されてはどうでしょうか？

#### 生きるための死に方

これからのお話は、ちょっと見方を変えさせていただきます。皆さんは、安楽死、尊厳死という言葉聞いたことがあるでしょうか。

安楽死とは、末期患者に対してなんらかな処置をして、息絶えさせることです。これは、現在日本の法律では認められていませんが、海外では、家族の同意があれば、薬を投与したり、呼吸器をはずして、安楽死をさせることがあります。いわば、末期患者を何らかの方法で殺してしまうということですね。日本ではまだできません。

次に尊厳死ですが、これは何かと言いますと、末期患者に、無駄な延命処置をとらないということです。日本では、まだ制約があるのですが、本人と家族の同意があればということで、尊厳死は認められるようになりました。しかしながら、末期患者が自分の思いをしゃべることができるでしょうか。まだまだ、難しい問題を抱えておりますが、やはり、人の死ということを考えると安易に結論は出ないかと思えます。ただこのノートには自分の考えを記すことは可能です。

次にドナーカードですが、皆さんご存知でしょうか、正式には臓器提供意思表示カードと言いますが、自分が亡くなったときに、人様のために臓器を提供するかしないかを意思表示する、このような黄色いカードです。最近では、コンビニとか郵便局などでも置いてい

ますよね。こちらについても、ご自信の意思表示として携帯されたりとか、このエンディングノートに記してはいかがでしょうか。

また、皆さんはエンバーミングという言葉を知ったことがあるでしょうか？日本語では「遺体衛生保全」と訳されます。御遺体に対して、体内の血液や体液を吸引し、特別な腐敗防止の薬を体内に注入します。御遺体の消毒、保全を行います。また、病气や事故によって、容貌が豹変したり、破損された御遺体の復元のために、形成処置をし、最後に薄化粧を施します。

従来ですと、お体にドライアイスをあて、体液を凍らせます。10Kgもあるドライアイスをお体の上にのせるのですから、ご遺族皆様は忍びないですよね。また、お体は凍傷のように、皮膚に跡が残ります。腐敗を防止する、簡易な方法としてドライアイスの使用が一般的です。エンバ-ミングを施すと、ドライアイスの必要はありません。火葬するまでの間を長期的に、眠っているような感じで、御遺体を御安置できます。大切な人の死を認めるには、最後のお別れをしていただくことが大切です。そのお別れが、眠っているような、今にも目を覚ましそうな、なおかつ、安全に行えるのであれば、そのお気持ちというのが、生涯残ると思います。

#### 散骨・宇宙葬・樹木葬・自然葬・無宗教葬

次に様々なご葬儀の形態についてお話します。先ほどもお話しましたがまずは、散骨です。散骨は合法か違法かということですが、刑法 190 条によると死体、遺骨、遺髪又は棺内に蔵置し足る物を損壊、遺棄又は領得したる者は3年以下の懲役に処す。とありますが、刑法 190 条の法益は「社会的風俗としての宗教感情」とされ、節度を持って葬送の目的をもって行われれば（散骨は）違法ではないという解釈が有力とされています。

この節度を持ってという言葉の解釈が抽象的で難しいということですが、基本的には、散骨をされる場合、ご遺骨をお骨とわからない状態まで、粉々にします。実際には2mm程度とされています。逆に言うと、お骨とわかる状態で散骨されると、今度は死体遺棄にもなりかねないということですが。

また、散骨の場所ですが、自分の土地の場合にはあまり問題はありませんが、以前に思い出の地で散骨をしたいということで、尋ねましたら、水源地に散骨したいということでした。皆さんどうでしょう、ご家族はそれで納得いくかもしれません。でも仮に、第三者がその事実を知ってしまったらどうでしょう。もう水道水は飲めなくなりますよね。もちろんその方には、ご説明をして、かなり離れた場所にほんの微量のお骨を散骨してもらいま

した。

海洋葬というのは、海に散骨することですし、宇宙葬として、アメリカからロケットで宇宙に散骨する場合があります。このときには、お骨を2gカプセルに入れて散骨するそうです。樹木葬は、散骨した場所に樹木を植えます。

#### 散骨・宇宙葬・樹木葬・自然葬・無宗教葬

散骨するには、大きく二つの考え方があるとおもいます。単に思い出の場所、生前に夢焦がれていた場所に散骨したい。この思いが一つ。もう一つには、お墓もお骨堂もない、お金もないから散骨します。散骨がなされた最初は前者の思いというのが全てでしたが、テレビ番組などで報道されることによって、後者の考え方で散骨される方が増えてきました。

でも、実際どうでしょう。散骨されて、最初はよかったと言うことをよく聞きますが、2年3年5年と時が経過してから、どこにお参りしていいかわからない。よりどころがなくなったと聞くことがあります。ですから、これは私の勝手な持論ですけども、全骨を散骨されるのではなく、一部を、ごく微量を思い出の場所に散骨されるのであれば問題はないと思います。樹木葬もその木が万一枯れてしまったら、ご家族の悲しみは計り知れないのではと考えます。勝手なことをいいました申し訳ございません。とにかく今の流行だからと言うことで、安易に散骨を考えておられるのであれば、考え直してもいいかもしれません。

また、最近では自由葬、無宗教葬などもあります。宗教者と呼ばずに、皆様でお別れ会であるとか偲ぶ会であるとか名称も、お式の組み立ても自由にされることがあります。

その中では、音楽葬、カラオケ葬、囲碁葬などもありますし、会食しながら、故人の思い出を振り返るとか、お参りいただいた全ての人から、一言ずつお別れの言葉をいただくとか、故人様のお写真をスライドショーとして流すとか様々です。もちろんお別れには、献花であるとか、焼香であるとか、ご会葬者から一言メッセージをいただいてカプセルに収めるとか、思い思いのお別れをする形式も増えてきております。

#### 葬儀委員長・司会・葬儀役員について

お時間にも限りがございますので、最後に一言付け加えさせてください。核家族化が進み、最近では町内会への未加入の方や、独居老人の方が増えてきております。今までのご葬儀ですと、葬儀委員長、葬儀役員をご町内の方に依頼してお手伝いいただくというのが常でしたが、最近では、それもままならなくなりました。もちろんその場合には、私どもでも、人材派遣センターからプロの方をお呼びして、お願いすることもできます。

葬儀委員長様は立てられないという方も増えてまいりました。その際には司会のものが故人様の経歴をお話し、喪主様が一言本日はお参りいただきましてありがとうございましたとご挨拶される場合もあります。確かに費用はかかりますが、ご町内の方のお手伝いの食事、引き物の代金を考えると同等額もしくはそれよりお安くなるかもしれません。最近ではこのようなケースも増えてきたことをお伝えいたします。

おわりに

ご講演させていただいたときに最後に私はこの言葉を皆様に残して終了しております。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、お聞き下さい。

四苦とは、仏教でいう人間として生まれた以上、さけることの出来ないこの世の苦しみを表しています。四苦とはただ生きているだけで味わう基本的な苦しみのことで、生老病死の4つをいいます。この世に生まれること、老いること、病気になること、死ぬことが、人間に課せられた必然的な痛みというわけです。

四苦に、さらに精神的な痛みを加えてものが八苦です。その4つとは愛別離苦（あいべつりく）

愛する人と別れる痛み、怨憎会苦（おんぞうえく）いやなものや嫌いな人とつき合わなければ

ならない痛み、求不得苦（ぐふとつく）欲しいものが手に入らない痛み、五蘊盛苦（ごうんじょうく）

心身の欲望をコントロールできないことから生じる痛みです。

私たちの悩みや、痛みはいずれもこの8つのいずれかにあてはまります。人は壁にぶちあたると、わけもわからずもがき苦しみますが、まずはその内容を見極めることこそが痛みから脱する1歩となるのです。

以上、本日のご講演とさせていただきます。

本文は、平成19年5月にお話しをさせて頂いた講演を基に一部加筆修正を加え掲載しております。